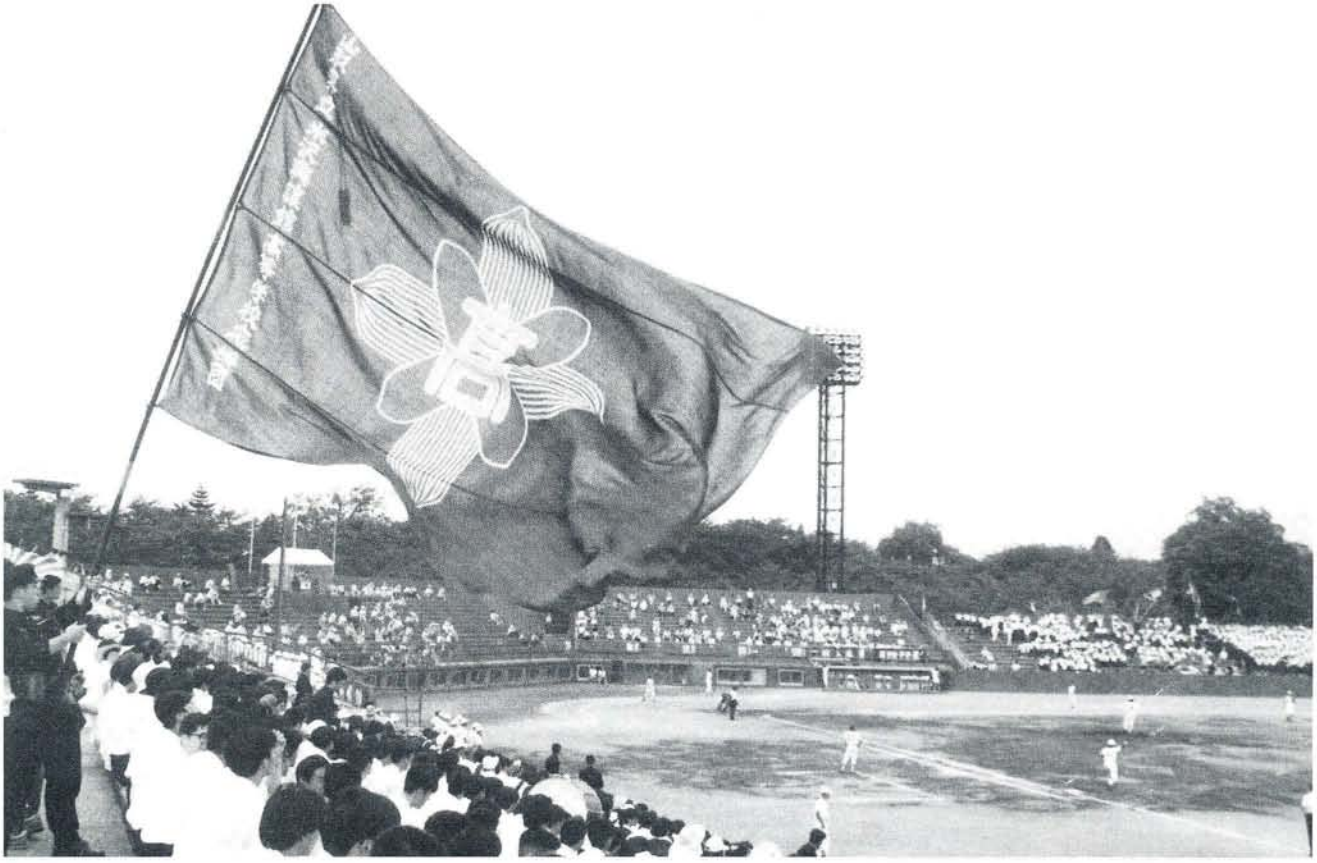
米沢興譲館同窓会会報

第24号
発行／平成7年7月29日
米沢興譲館同窓会
会報編集委員会

当会報の題字は、第19号から奥山徹石氏（昭28年卒）の揮毫によるものです。



平成七年 創立一〇九周年 米沢興譲館同窓会 総会懇親会

御出席の御案内

実行委員長
大友恒則（昭三十五年卒）

今回の総会、懇親会の担当学年は昭和三十五年、三十九年、四十四年、五十年、五十五年卒の担当です。今日迄、三回の実行委員会を重ね、そのスローガンを「敬愛」（先輩には敬意を、後輩には愛を）と致しました。若い同窓生の同窓意識の低迷の打破と混迷する世相の中でもう一度興譲館の学風に当り、多くの先輩達のいる豊かさ、久しぶりに会う同輩達との楽しい時、更に、多くの後輩達のいる事の喜びを感じ取って頂きたい、そんな思いを込め、集う者、皆友であり師である事を改めて、楽しく感ずることの出来る素直な場を創りたいと思っております。是非、先輩、後輩、同僚、呼び掛けあって、ご参集いただき、総会、懇親会の成功に力をお貸し頂きたい。心からお願い申し上げ御案内とさせて頂きます。

尚、九月十九日、在校生達への講演で、講師として我々の同窓生である、久米勝也（本名、久米勲）君が来校します。彼は現在、役者として、舞台、テレビ等で活躍中です。同窓の方も午前十時より学校にて講演されますので、御拝聴頂きたいと思い、重ねて御案内申し上げます。

会員名簿のささやき

同窓会長　松野良寅

同窓会会員名簿の旧職員欄に、佐野友三郎と佐野誠一郎の名が載っている。友三郎の担当は英語（＊佐野利器養父は誤記）。佐野誠一郎は、担当教科が「体操」となっているが、「英語」も担当している。というのは、耐震建築の権威・佐野利器の「述懐」（『佐野博士追想録』）のなかで「養父誠一郎は米沢中学の英語の教師で…英語は少年の頃米沢で直接英人に、次いで仙台の英語学校、それから東京の正則英語学校に学び、また須賀川の医学校でも学んだ。」と述べている事実からも英語を担当したことは瞭然である。

荒砥生まれの山口安平は、明治二十六年、誠一郎赴任の年に米沢中学に入学し、米沢興譲小学校長歌川源太郎宅に寄宿して通学する。やがて山口家の事情で修学をあきらめようとしていた時、加藤という荒砥小学校長から佐野家の養子の話があり、三年生の時に養子入りが決まる。その時、誠一郎の命名で「利器」と改名する。

明治三十年九月、利器は仙台の二高を受験して合格するが、体操の試験に器械体操があり、「私の得意の種目で、これがきっとよい点をとった為に合格となった」のだろうと利器は述懐している。

米沢で誠一郎に英語を教えた英人は、多分C・H・ダラスであったろう。明治四年設立の米沢の洋学舎（米沢中学前身）には山形方面から一〇人の生徒が学んでいるが誠一郎はその一人に違いない。ダラスは、当時としては極めて斬新な器械体操や高跳び・クリケットなども教えているから、誠一郎もダラスから器械体操の指導を受けたものと想像される。この養父の影響で、利器も器械体操に興味をもったのかもしれない。このように推測すれば、誠一郎が英語のほかに体操も担当した可能性が十分に考えられる。

明治三十一年米沢中学興譲館卒の利器の仲間には、佐藤寛次（東大教授・東京農大学長）、針生忠一（鶴岡中学校長）、松浦松見（海軍中将）らがいる。彼らが五年生の時に、日清戦争の武勲で金鵄勲章をもらった黒井悌次郎大尉（後大将）がその年金の一部を母校に寄付して、日光・京浜地方の修学旅行が初めて実施された。

同窓会会員名簿を、単なる住所録と考える人からは、わざわざ購入するまでもない、というそっけない現実的な声も聞こえてくる。しかし、私立時代も含め、明治の人達の進路動向や、大正・昭和戦前・昭和戦後の職種のバラエティを比べ、それぞれの時代背景を思い浮かべながら名簿を眺めていると、たった一行の記録から、人あまたあと継ぎて、業につき努めをなして来た一万五千の同窓先輩たちが、現代を生きる我々に語りかけてくるような気がする。曾祖父・祖父あるいは父の同時代の人たちも、昔ある時、我々の母校で学んでいたという親近感が湧いてくる。無言のうちに母校の歴史を伝えてくれる、これこそ、住所録や電話帳などと全く性格を異にする、同窓会会員名簿の存在意義ではなかろうか。

米沢興譲館同窓会
平成七年度総会・大懇親会ご案内

一、日時　平成七年九月十九日（火曜日）
二、会場　グランドホクヨウ（市内金池二丁目）
三、日程　①総　会　午後四時から
　　②懇親会　午後五時三十分から
※対高校職員との親善野球試合

平成七年度米沢興譲館同窓会会長　松野良寅
平成七年度同窓会総会・懇親会実行委員長　大友恒則

一〇九年目の歴史を確かな足どりで

山形県立米沢興譲館高等学校
校長　大谷　昭男

同窓会の皆様には、本校教育の振興に対しまして、日頃絶大なるご支援を賜り、心から厚く御礼申しあげます。

昨年度は、本校の校是であります「文武両道の実践」を合言葉に、全校が総力をあげて取り組んでまいりました。生徒一人ひとりの進路に対する希望の実現と、これからの生涯を支える逞しい心と体をきたえるための部活動振興に、それぞれ大きな不安と苦しみを克服しながら努力する生徒の姿に、胸を熱くしたことが度々でした。フェンシング部のインターハイ優勝に象徴されるように、そして現役での大学進学率、九〇パーセント達成が物語るように、皆様の後輩、二五七名が、逞しく卒業してまいりました。この若者たちに、同窓会の皆様方の温かいご支援を全国各地で賜りますよう、本紙面をおかりしてお願い申しあげます。

平成七年度も第一学期を終ろうとしております。生徒七三二名は、昨年の実践に学びながら更に「文武両道」の実をあげるべく努力しております。今年もフェンシング部が男女とも団体でのインターハイ出場を果たしました。私達はこれは本校部活動全体の成果であり、同窓会を初め本校教育の充実にご支援下さる多くの方々の熱き思いの表れであると受けとめております。今後は、昨年同様、この「武」の快挙を「文」の充実の土台にすべく、生徒たちと共に力を結集して参りたいと考えております。

社会が大きく変化し、先行き不透明なまま今世紀も幕を降ろそうとしております。来たる二十一世紀もこの不透明さをひきずって始まることでしょう。しかし、いつの時代にも変わってはならないもの、変わらないもの、いわば不易なるものがあるはずです。教育は申すに及ばず、生き方の基本としてこの不易なるものを、本校一〇九年の歴史の中から学びとり、二十一世紀の担い手である若者に伝えていくことが、私どもの使命であると考えております。そして、現在のあの輝く瞳と心身の逞しさを生涯持ち続ける皆様の後輩を育てて参る所存です。

本部総会はもとより、各地の支部総会に参加させていただきましたが、その度毎に、皆様の母校愛と後輩に寄せて下さる大きな期待とを肌で感じて参りました。このご支援にお応えするためにも、本校一〇九年目の歴史を八百の生徒職員力を合せて書き綴っておりますことをご報告申しあげます。

同窓会の皆様の変わらぬご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげますとともに、同窓会の更なるご発展をお祈りいたします。

米沢興譲館高等学校
創立一〇九周年記念式
記念講演ご案内

一、日時　平成七年九月十九日（火曜日）
二、会場　米沢興譲館高等学校　体育館
三、日程　①記念式典　午前九時から
　　②記念講演　午前十時から
講師　久米勝也氏
（昭三五年卒）

興譲館の歩み

平成八年に本校は創立一一〇周年をむかえる。創立以来、それぞれの節目に本校はどのような動きをみせたのであろうか。
米沢市史編纂委員会委員長でもあられる松野同窓会会長にまとめていただいた。

明治十九年　北堀端片町に新校舎が落成し、新中学校令に準じて五年制の私立米沢中学校がスタート。元禄の藩学創設以来九七年。

それから十五年後の明治三十三年県立となり、三十四年関東町に、総工費八万六千円の新校舎落成、移転開校式を挙行。

明治四十一年　東宮殿下（大正天皇）行啓記念として校旗制定、記念館が建設され四四年に竣工。戦前《記念館》と称し上級生のしごきに下級生が震え上がったのがこの建物。

大正十五年　創立四〇周年を記念して、矢尾板三印・片山元僑・細井平洲・神保蘭室・池田成章の五師を祀る先師祭挙行、翌月東宮殿下行啓一周年を記念して「霊址」除幕式が行われた。

昭和十一年　創立五〇周年のこの年、未曾有の豪雪で講堂が倒壊、九月十八日新講堂の竣工式を挙行、創立記念当日には、宮島幹之助・本間久雄・我妻栄・高橋酉蔵各教授の講演会を開催。

昭和三十一年　「米沢興譲館高等学校」と改称、創立七〇周年記念事業として、新校旗・新校歌を制定、冊子『興譲館精神』刊行。

昭和四十一年　創立八〇周年記念の年、我妻栄博士寄贈の奨学金を元に「財団法人自頼奨学財団」設立、全日制・定時制の同窓会が合流、『興譲館八十年』発刊のほか同窓生物故者慰霊祭、興譲会館（同窓会館）竣工式を挙行。

昭和五十一年　創立九〇周年記念事業として『興譲館のあゆみ』『興譲館史話』『学校新聞縮刷版』『同窓会員名簿』を発刊。

昭和六十一年　創立一〇〇周年記念式当日は、全国各地より旧職員・同窓生らが多数参列、記念事業として沿革史『興譲館世紀』『同窓会会員名簿』を刊行。六十二年七月、笹野地区に新校舎全面竣工、新校舎への移転後、関東町の旧校舎を全面解体、六十三年六月、新校舎竣工式典を挙行。

平成八年は創立一一〇周年の年に当たり、翌九年には元禄十年の学問所創設以来三〇〇年の記念すべき年を迎える。

「栄えある歴史三百年　連綿尽きぬ興譲の」流れを受け継ぐ我々には、講堂建設という大業が待っている。この大事業を全うして、母校の後輩生徒とともに、応援歌「凱歌」を高らかに歌う日の一日も早からんことを祈るばかりである。

同窓会から

☆　同窓会のうごき

同窓会総会は前ページの案内の通り懇親会に先だち、同会場で行われます。年ごとに盛んになる懇親会と共に、「支部活動の活発化」・「○○先生を囲む会」・「同年会」・「クラブOB会」等の開催もここ数年来活発であり、同窓生の主要な活動として定着しつつあることを耳にしてはうれしく思ってます。なお集会についての結果報告などを事務局にいただければ幸いです。

☆　同窓会報配布について

毎年このような同窓会報を一万二千部発行しています。同窓会報は母校・同窓会・同窓生をつなぐ大切な出版物です。なるべく多くの方に届くよう学年毎の御配慮をおねがいいたします。

☆　同窓会費納入について

同窓会費は学年毎にまとめて納入してもらっております。

何といっても皆様の会費が同窓会を支えるということをご理解下さいまして御協力方お願い致します。

今、学校は…

旧校舎から笹野の現在地に移転してはや八年。吾妻山を背景に偉容をほこる校舎群もすっかり定着した感がする今日、母校出身のお二人の先生に近況をよせていただいた。

小林　栄（昭三八卒）

西大通りの旧校舎から笹野の地に移転したのもつい先頃のような気がするのに、もう八年目。旧校舎からの職員も二割強、生徒は勿論誰も知らない。しかし校舎のあちらこちらに〝さよなら旧校舎〟の記念絵画が飾られており、興譲館の歴史の重みを感じさせてくれます。校庭の植栽樹木も校舎と調和し、日毎に風格を増しています。新校舎移転に際しての、同窓生各位からのご厚情に改めて感謝致します。

さて、母校の生徒諸君の活躍ぶりは、大学入試センター試験において、平成五年三月には、東北地区高校ランキング（河合塾調べ）で第三位をマークするなど、年毎に記録を更新し、今年度は現役大学進学者、国公立大一八〇名、私立大四四名で卒業生の約九割が進路志望を達成しています。

一方、部活動においてはフェンシング部が県大会団体種目でアベック優勝し、更にインターハイで念願の優勝（個人サーブル、岡村悦男）を果たしています。他のクラブもこれに続けとばかり、燃えているところです。

本校に奉職する私ども職員一同、一丸となって母校の更なる発展に聊かなりとも寄与すべく頑張っております。

同窓生の皆様、どうぞ母校へお立ち寄り下さい。そして温かいご支援をお願い致します。

小林先生

五十嵐京子（昭三九卒）

他の人からの指摘で初めて本校に勤務して四分の一世紀も経つことに気がつきました。高校時代も含めるとこれまで人生の半分以上を興譲館で過ごしていることになります。この間、今なお暖かいご指導を受けている恩師の方々、歴代の校長を初めとする同僚の皆さん、すばらしい生徒達に恵まれ、無為徒食ながら大過なく過ごせましたこと、本当に有難く思うばかりです。特に同窓会の皆様には、同じ窓から斜面を眺め吾妻の山なみを拝し生活体験の場を共有したということだけで理屈以前に無条件で受け入れて下さり、励ましやご親切を頂戴し、不思議な一体感に感動と感謝を覚えております。

校舎も、ひとも、時代も変わる中で脈々と受け継がれてゆく「興譲」の精神を後輩に伝え、有為な先輩の後を継ぐ人材を育てるために、今後も精進を続けてまいりたいと思います。「年々歳々花相似たり、歳々年々人同じからず」の二十五年でした。

五十嵐先生

小原教諭　日本代表に選抜

母校のフェンシング部顧問の小原秀樹教諭は、選手の強化にむけての実績はもちろん、この度は自らも日本代表選手に選抜され、7月の世界選手権、そして8月のアジア・オセアニア選手権大会に参加されます。

それでは今年、母校から東北大会に、あるいはインターハイに出場する選手を紹介します。

○インターハイ出場

フェンシング

男子団体・女子団体

個人男子

佐々木哲也

黒田　真二

個人女子

塚田　祥子

原田あゆみ

河田　奈緒

○東北大会出場

水泳部

（自由）上野　英輔（男子）

（平）松田　英美（女子）

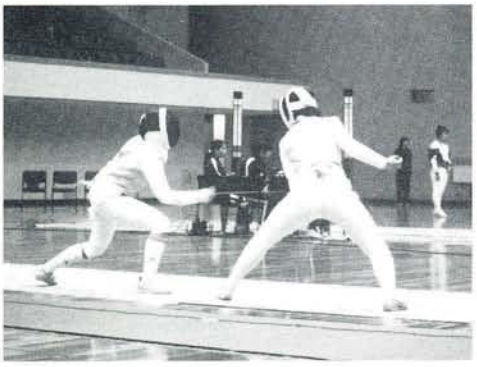
（個メ）中村　俊則（男子）

（男子四百R）上野・中村

平・小島

ソフトテニス

（男子）入間田・安達組



平成5年度 同窓会決算書

収　入　（単位：円）

項　目	当初予算額	予算現額	決算額	増減（△）	備　考
繰越金	446,851	446,851	446,851	0	前年度繰越金
入会金	1,848,000	1,848,000	1,841,000	△ 7,000	7,000円×263名
年会費	1,730,000	1,730,000	1,347,130	△ 382,870	会費 1,617,000 − 振込手数料 17,870 − 返納 252,000
前受会費	0	366,000	366,000	0	6年度会費より
雑収入	149	149	14,040	13,891	預金利子、昭五会様より
計	4,025,000	4,391,000	4,015,021	△ 375,979	

支　出　（単位：円）

項　目	当初予算額	予算現額	決算額	増減（△）	備　考
（運営費）	(1,020,000)	(1,020,000)	(921,359)	(△ 98,641)	
会議費	120,000	120,000	85,230	△ 34,770	役員会
通信連絡費	70,000	70,000	31,935	△ 38,065	通信費
需用費	200,000	200,000	174,194	△ 25,806	慶弔関係、餞別
人件費	630,000	630,000	630,000	0	学校人件費会計へ
（事業費）	(2,920,000)	(3,286,000)	(3,093,123)	(△192,877)	
総会助成金	150,000	150,000	150,000	0	
一般事業費	1,200,000	1,516,000	1,323,123	△ 192,877	各支部総会お祝い、旅費
卒業記念費	200,000	200,000	200,000	0	われらが澪つくし
表彰費	10,000	60,000	60,000	0	6名
会報費	300,000	300,000	300,000	0	第23号　10,000部
特別会計繰入	1,060,000	1,060,000	1,060,000	0	
（予備費）	(85,000)	(85,000)	(　0)	(△ 85,000)	
予備費	85,000	85,000	0	△ 85,000	
計	4,125,000	4,391,000	4,014,482	△376,518	

収入額　4,015,021円 − 支出額　4,014,482円 ＝ 次年度繰越 539円

特別会計	前年度末残	預金利子	本年度積立金	本年度末残高
同窓会名簿作成基金	122,292	3,729	60,000	186,021
藩学創設三百年準備金	1,000,000		1,000,000	2,000,000

参　考

年会費前納内訳表（単位：千円）

年度	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19〜21	計
金額	762	447	283	205	150	81	48	27	21	12	10	4	4	7	2061

監査の結果上記のとおり相違ないことを認めます。

平成6年9月2日

同窓会監事　橋本桂吉 ㊞

加藤敏夫 ㊞

平成6年度 同窓会予算書

収　入

（単位：円）

項　目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減(△)	備　考
繰越金	539	446,851	△ 446,312	前年度繰越金
入会金	1,799,000	1,848,000	△ 49,000	257名×7000円
年会費	1,700,000	1,730,000	△ 30,000	17～20年度まで 5×40,000＝200,000 21～51年度まで29×50,000＝1,450,000 52年以降並びに定時制 50,000
前受会費	1,040,000	366,000	674,000	6～8年度会費より
雑収入	461	149	312	預金利子
計	**4,540,000**	**4,391,000**	**149,000**	

支　出

（単位：円）

項　目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減(△)	備　考
（運営費）	(1,020,000)	(1,020,000)	(　0)	
会議費	120,000	120,000	0	役員会等
通信連絡費	70,000	70,000	0	郵便切手等
需用費	200,000	200,000	0	慶弔費、転退職等餞別、消耗品
人件費	630,000	630,000	0	学校人件費助成
（事業費）	(3,076,000)	(3,286,000)	(△210,000)	
総会助成金	0	150,000	△ 150,000	
一般事業費	1,516,000	1,516,000	0	各支部総会各学年会助成、会報送料
卒業記念費	200,000	200,000	0	記念品代
表彰費	0	60,000	△ 60,000	
会報費	300,000	300,000	0	第24号発行費
特別会計繰入	1,060,000	1,060,000	0	同窓会名簿作成基金 60,000 藩学創設三百年準備金 1,000,000
（前受会費）	(366,000)	(　0)	(366,000)	
前受会費	366,000	0	366,000	
（予備費）	(78,000)	(85,000)	(△ 7,000)	
予備費	78,000	85,000	△ 7,000	
計	**4,540,000**	**4,391,000**	**149,000**	

米沢興譲館同窓会支部役員

◎米沢支部　連絡先　〒992　米沢市大字笹野1101
米沢興譲館高校内　☎0238（38）4741
支部長　松野良寅　〒992　米沢市花沢町1－11－29－9
副支部長　清水　澄・遠藤　拓
幹事長　川野　希
事務局長　小関　薫

◎東京支部　連絡先　〒111　台東区今戸1－15－3
磯貝合金㈱　☎03（3875）8211
FAX03（3875）8213
支部長　松田　敬
相談役　小幡常夫・青木　朗
副支部長　小森力雄・磯貝昌弘
監事　宮原信一・猪口圀夫
幹事長　後藤主計
副幹事長　飯沼俊男・月生田建・梅津誠二郎
吉田仁志・斎藤文一・板垣昭次
鈴木寛治・川井陽一

◎関西支部
支部長　斎藤秀吉　〒569　大阪府高槻市天川町43－13
☎0726（74）0104
副支部長　森谷政之助
幹事長　林崎孝陽
事務局　連絡先　〒537　大阪市東成区東今里2－15－30　サン美術印刷㈱　勝見哲朗
☎06（976）0231

◎宮城支部　連絡先　〒983　仙台市宮城野区二十人町6
中條　仁　☎022（291）5372
支部長　瀬川　耕
副支部長　中條　仁・白石善次郎・芳賀滋弥
幹事　岩田清隆・相田音吉・林　一郎・小林令児
香坂昌紀・大武清夫・猪俣良市・御供政敏
森下和夫・熊坂　仁・山水　忍・鈴木利美
和田美知子・矢尾板範子

◎山形支部
支部長　高野健男　〒990　山形市平清水75－9
☎0236（22）1657
副支部長　高橋淳一・堤　孝雄・斎藤　真
幹事長　二瓶　功
副幹事長　船山光文・安部　敏
監事　安藤隆夫・岩沼　甫
事務局　〒990　山形市緑町1－2－40
☎0236（42）2538

◎青森支部　連絡先　〒030－02　青森市大野前田76－25
青森県立つくしが丘病院長　後藤　昭
☎0177（39）1596
支部長　後藤　昭
事務局長　後藤　昭

◎山形県庁教育委員会職員同窓会　連絡先　〒990　山形市西田4－12－29－5　☎0236（43）8715
会長　安田幸夫　〒992　米沢市御廟2－2－17
☎0238（22）5396
副会長　小関克二
幹事長　斎藤忠男
監事　鈴木正道・近野久左衛門

◎置賜地区県職員同窓会　連絡先　〒992　米沢市金池
東南置賜合同庁舎　☎0238（24）2311
支部長　佐藤　亮　〒992　米沢市御廟2－7－13
☎0238（23）2851
幹事長　高橋恵史

◎高畠支部
支部長　登坂捷一　〒992－03　東置賜郡高畠町高畠2152－23　☎0238（52）0017
副支部長　梅津伊兵衛・小野栄一
幹事長　鈴木征治
事務局長（連絡先）金田成康　高畠町役場内
☎0238（52）1111

◎赤湯支部
支部長　須藤清次　〒999－22　南陽市赤湯3005
☎0238（43）6111
副支部長　伊藤幸太・外山善夫
事務局長（連絡先）高橋順一　〒999－22　南陽市二色根76－1

◎宮内支部　連絡先　〒992－04　南陽市宮内3010－10
吉田文雄　☎0238（47）2706
支部長　佐藤　稔　〒992－04　南陽市宮内3093
☎0238（47）2062
副支部長　中村二男・川井悌次郎
幹事長　星　清一
監事　小関堅太郎・橘　順

◎川西支部　連絡先　〒999－01　東置賜郡川西町上小松
川西町役場　猪狩文昭
☎0238（42）2111
支部長　遠藤忠志　〒999－02　東置賜郡川西町尾長島1211　☎0238（42）4121
副支部長　鈴木　弘
監事　船山昭司・嶋津憲英
幹事長　猪狩文昭
事務局長　島貫啓一・後藤哲雄・大友勝治

◎長井西置賜支部　連絡先　〒993　長井市館町北6－16
市民会館前　渡部秀一司法書士事務所
☎0238（84）2368　FAX0238（84）2373
支部長　外田　陽　〒993　長井市栄町11－17
☎0238（84）2004
副支部長　井上俊雄・芳賀康雄
代表幹事　今井慎吾
事務局長　渡部秀一

◎小国支部　連絡先　〒999－13　西置賜郡小国町小坂町1－16　渡部建築事務所　渡部君夫
☎0238（62）2412
支部長　高井朋次　〒992－12　西置賜郡小国町市野々389　☎0238（65）2006
副支部長　阿部　正・木村信夫
幹事長　渡部君夫

◎万世支部
支部長　完戸昭夫　〒992－11　米沢市万世町梓山586－2　☎0238（28）3532
副支部長　桐沢安興
事務局長　海藤　精

◈同窓会報編集委員
高野宏一　高野　譲　高野　実
小関　薫　木村琢美　平山茂夫
相田治孝　森　惇　菅　弘
小林　栄　本間　精　小林伸也
五十嵐京子　佐藤美枝子　遠藤岩根